

エビ目(十脚目)ヌマエビ科

トゲナシヌマエビ

Caridina typus H. Milne Edwards, 1837

【選定理由】

南方系のエビで、隠岐島前で確認されているが、近年、県東部においても生息が確認されるようになった。県内における生息地および生息数は少ない。

【概要】

体長25-35mm。額角は短く、上縁には普通歯がない。下縁の先端近くに0-3個の歯がある。河口域から上流域まで広く分布する。淡水性両側回遊型で、ゾエア幼生は海で育つ。繁殖期は7-8月頃。日本海側では能登半島が北限記録である。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵26

【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐諸島で生息が確認されている。今後、日本海に面する中小規模河川において調査をすれば、新たな生息地が確認できるものと思われる。

【存続を脅かす原因】

農業や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

エビ目(十脚目)モクスガニ科

台湾ヒライソモドキ

Ptychognathus ishii Sakai, 1939

【選定理由】

全国的にも希少で、日本海側では島根県でのみ生息が確認されている。

【概要】

甲幅10mm程度。甲は平滑で、前側縁の2歯は鈍い。オスのはさみ脚の基部には長い軟毛が密生する。淡水の影響の強い汽水域上部付近の転石帯に生息する。繁殖期は夏から秋期。相模湾、伊豆半島、紀伊半島、四国、九州、対馬、種子島、奄美大島、沖縄島、石垣島などの沿岸の限られた地域で分布が確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵27

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の小川や隠岐島前で記録されている。日本海に面した中小規模河川の淡水の影響の強い汽水域上部付近の転石下に生息。今後、生息に適した環境を調査すれば、新たな生息地が確認できるものと思われる。

【存続を脅かす原因】

河川改修や河口堰建設などによる生息地の破壊。

エビ目(十脚目)ベンケイガニ科

フタバカクガニ

Perisesarma bidens (De Haan, 1835)

【選定理由】

南方系のカニで、県内における分布は局所的で、生息数も少なく情報も少ない。

【概要】

甲幅25mm程度。甲は四角形で、フタバの名前の通り前側縁には眼窩外歯を含めて2歯ある。甲は褐色で、甲面には短い毛が散在する。はさみ脚は黄色みを帯び、ゴツゴツした感じがある。可動指上縁には13-16個の顆粒が並ぶ。日本海側では山口県と島根県でのみ記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵27

【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐島後で記録されている。日本海に面する河川の河口域周辺や港内などで、淡水が流入する用水路やその周辺の石垣などで生息が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生息条件の悪化など。

ワラジムシ目(等脚目)スナウミナナフシ科

シンジコスナウミナナフシ

Cyathura shinjikoensis Nunomura, 2001

【選定理由】

宍道湖固有種と考えられるため。

【概要】

体長約10-20mm。体は円筒形で、体長は体幅の11.5倍。第1胸脚のみが鉤状である。目を有し、第1小顎先端の歯の数が少なく、顎脚第2節の長い剛毛を欠くことなどで他種と区別できる。これまで本水域からキクチスナウミナナフシ *Cyathura kikuchii* Nunomura, 1977として記録された個体は本種のことである。湖底の砂質部に生息する。性比に偏りがあり、オスが採集されることは少

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：-

ない。宍道湖(大橋川を含む)から知られている。

【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖湖底の砂質部から記録されている。

【存続を脅かす原因】

宍道湖の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）ナガワラジムシ科

ニシカワホラワラジムシ

Hyloniscus nishikawai Nunomura, 1990

【選定理由】

大田市石見銀山と大森町の間の廃鉱のみで記録されているため。

【概要】

体長5mmまで。色素を完全に欠き、体は白色。眼を欠く。丸くすることができない。顎脚やオスの腹肢の形態などから他種と区別できる。基準標本産地のみから記録されている。

【県内での生息地域・生息環境】

1984年9月5日に大田市石見銀山と大森町の間に位置

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

する廃鉱で採集された個体が知られているのみである。

【存続を脅かす原因】

不明。

ワラジムシ目（等脚目）ウミベワラジムシ科

ニホンハマワラジムシ

Armadilloniscus japonicus Nunomura, 1984

【選定理由】

良好な自然海岸の指標種として重要と考えられるため。

【概要】

体長5.5mmまで。体色は赤紫色。幅広く平たい体形で、丸くすることができない。第2触角の形態、頭部前縁中央の突起、尾節板後部の形状などから他種と区別できる。自然海岸の砂利のたまったところや、転石海岸の適当な湿り気のある飛沫帯に生息する。日本全国に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵27

【県内での生息地域・生息環境】

県内では松江市、出雲市、および隠岐（島後）で記録されている。

【存続を脅かす原因】

自然海岸の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）ヒメワラジムシ科

ニッポンヒイロワラジムシ

Littorophiloscia nipponensis Nunomura, 1986

【選定理由】

自然海岸のみ生息し、良好な自然海岸の指標種として重要であるため。

【概要】

体長5mmまで。体色は赤褐色。丸くすることができない。体は楕円形で、長さは幅の約2.6倍。近縁種とは尾節板の形態や尾肢の相対的な長さにより区別される。岩礁または砂利の自然海岸で、適当な湿り気のある飛沫帯にのみ生息する。日本全国、および韓国に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵27

【県内での生息地域・生息環境】

県内では松江市、出雲市、および隠岐（島後）で記録されている。

【存続を脅かす原因】

自然海岸の環境変化。

ワラジムシ目（等脚目）トウヨウワラジムシ科

ニシカワハヤシワラジムシ

Agnara nishikawai (Nunomura, 1987)

【選定理由】

松江市枕木山が基準標本産地で、分布が山陰地方に限られるため。

【概要】

体長7mmまで。生時の体色は白または薄い褐色。丸くすることができない。胸部腹節とオスの第7胸肢腕節の形態などによって近縁種と区別できる。森林内の土壌リター中に生息する。山陰地方（鳥取県、島根県、山口県）に分布する。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：中国地方固有種、基準標本産地

環境省：－

【県内での生息地域・生息環境】

松江市枕木山のみで記録されている。

【存続を脅かす原因】

不明。

ワラジムシ目（等脚目）コシビロダンゴムシ科

シロコシビロダンゴムシ

Venezillo albus (Nunomura, 1990)

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

隠岐（島後）固有種と考えられるため。

【概要】

体長約4－6mm。色素を欠き、体は白色。丸くなることができる。体色とオスの第1腹肢および第2腹肢の形態で他種と区別できる。隠岐（島後）に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

1984年8月21日に、隠岐島後の鷺ヶ峰で採集された個体が知られているのみである。

【存続を脅かす原因】

隠岐（島後）の環境変化。

甲
殻
類

絶
滅
野
生
絶
滅

絶
滅
危
惧
Ⅰ
類

絶
滅
危
惧
Ⅱ
類

準
絶
滅
危
惧

情
報
不
足

甲殼類

絕滅
野生絕滅

絕滅
危懼 I 類

絕滅
危懼 II 類

準
絕滅
危懼

情報
不足